

# ノボル鋼鉄

## 「宮城テクニカルセンター」来春完成

### 工具鋼の機械加工拡充

ノボル鋼鉄（本社・東京都千代田区、社長・三上聡彦氏）は、15年3月完成予定で、工具鋼中心の機械加工事業を拡充するため、宮城県取市に「宮城テクニカルセンター」（以下、宮城T.C.）を開設する。既存の機械加工拠点であるテクニカルセンター（福島県南相馬市、以下T.C.）は汎用フライス加工など一次機械加工、宮城T.C.は大型マシニングセンターなど二次機械加工の拠点とする。宮城T.C.の総投資額は約8億4千万円で、津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金も活用する。

同社は工具鋼などの鋼材販売・熱処理加工の機械加工を3本社と2大手特殊鋼問屋、T.C.は福島第1原発事故後に他事業所に転勤した社員的生活基盤も考慮すると、以前の操業状況に回復するのは困難な見通し。新たに宮城T.C.を開設して加工設備を増強し、2拠点体制で機械加工事業を拡充する。

名取市の愛島工業団地内の敷地8619平方メートルを約1億円で取得し、建屋14888平方メートルを建設中。門型マシニングセンター3台、門型平面研削盤、3次元測定機など新鋭設備を約2億円で導入し、精密加工機械をT.C.から一部移設する。用地取得費用を除く投資額は約7億4千万円。



宮城T.C.の完成予想図

元測定機など新鋭設備を約2億円で導入し、精密加工機械をT.C.から一部移設する。用地取得費用を除く投資額は約7億4千万円。

宮城T.C.は15年4月から稼働を開始し、6月以降の本稼働を計画する。約10人体制でスタートする予定。

# ノボル鋼鉄

## 2期連続増益へ

15年6月期

ノボルとして倉庫、工場で緑十字無災害記録板を導入。15年6月、通期で労災ゼロを達成した。

期単独決算で売上高68億2千万円、経常利益2億5千万円と2期連続の増益を目指す。宮城テクニカルセンター研修を継続実施する。

品質ISO（99年取得）、環境ISO（06年取得）については、効率化のため統合マネジメントシステムに移行し、9月に承認された。

12月末に真空洗浄機1基を増設して2台体制に拡充する。今期から新たな社内教育制度を確立するなど、企業基盤の一層の充実を図る。

14年6月期は売上高60億9千万円で前期比13・1%増、経常利益1億7300万円で同82・1%増、純利益1億7400万円で同87・1%増。主な投資は愛島工業団地の用地取得、羽田配送センター、静岡支店の帯鋸盤各1台の更新、仙台支店の帯鋸盤1台増設（帯鋸盤3台合計で3千万円）で、無災害を目標

12月末に設置予定の真空洗浄機は能力不足の解消を狙い導入するもので、投資額は約2400万円。ものづくり補助金を活用する。

8月末の役員人事では豊元良浩営業部長を取締役（営業統括兼営業部長）に新任した。